県指定史跡

徳富蘇峰・蘆花生家

とくとみそほう　ろかせいか

蘇峰・蘆花兄弟が暮らした古き商家

徳富蘇峰・蘆花兄弟が幼少時を過ごした旧徳富家の建物です。明治３（1870）年に徳富一家が熊本へ移った後は、西村家の商家（屋号：衣屋）として受け継がれてきました。

平成２(1990)年から４年の歳月をかけ復元工事が行われ、江戸時代に建てられた徳富家の「生家主屋」「生家蔵」「はなれ」に加え、明治時代に建てられた西村家の「衣屋主屋」「衣屋蔵」の５棟が整備されています。２つの主屋は建てられた時代は異なりますが、どちらも店舗を兼ねた住居です。

生家主屋は棟札によれば、寛政２（1790）年に建てられており、熊本県内で建築年代が判明している中では最も古い町屋です。徳富家時代は浜居蔵と呼ばれ、蘇峰は７歳まで、蘆花はここで誕生して２歳まで暮らしていました。

平成９（1997）年に県指定史跡となりました。兄弟の家としての史跡的価値だけでなく、江戸時代と明治時代の商家の造りを見ることができる建築史学的価値も持った文化財です。

徳冨　蘆花（1868年-1927年）

本名は健次郎。明治～大正時代にかけて活躍した文豪。

兄・蘇峰が創立した民友社に勤めながら執筆活動をし、「國民新聞」で連載した小説『不如帰』がベストセラーとなりました。続く『自然と人生』も高い評価を受け、小説家の地位を確かなものとします。後に、ロシアの文豪トルストイに影響を受け、半農生活を送るようになりました。主な作品に『思出の記』『みゝずのたはごと』『黒潮』のほか、明治後期に訪れた故郷・水俣の様子も描写されている『死の蔭に』などがあります。

徳富家

徳富家は島原の乱の功績により、寛永 16（1639）年に水俣に土地を賜りました。徳富家は武士でしたが、生活を営むため、酒造、廻船、たばこなどを生業としていました。５代目久貞（太多七）は「徳富家中興の祖」といわれ、造酒屋を興し、「水俣書堂」という学校を設けて教育にも尽力しました。６代目から徳富家は三家に分かれ、浜居蔵を継いだ分家の貞申（茂十郎）が、兄弟の曽祖父です。

また、久貞が津奈木手永の惣庄屋に任命されて以降、貞申、美信（太善次・兄弟の祖父）と長期に渡り地方行政に携わりました。一敬（兄弟の父）の熊本藩への出仕に伴い、徳富家は水俣から離れました。

【入館料】無料
【 住 所 】〒867-0065 熊本県水俣市浜町２丁目６－５
【電話番号】0966-62-5899
【アクセス】南九州西回り自動車道水俣ICから車で５分
【開館状況】
https://www.city.minamata.lg.jp/kiji0033711/index.html

水俣市教育委員会教育課生涯学習室
【 住　所 】〒867-8555　熊本県水俣市陣内１丁目１－１
【電話番号】0966-61-1639
【E-mail】syogai@city.minamata.lg.jp

令和８年３月作成